

令和7年度学校経営計画書

学校名 三次市立川地小学校

校長名 原田 和明

I 学校の状況

学級数	6 学級	児童・生徒数	5 1 名	教職員数	1 4 名
メールアドレス	kawachi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.miyoshi-kawachi-e.hiroshima-c.ed.jp/				

II 学校教育目標

【校 訓】 高 志

【学 校 教 育 目 標】 ふるさとを愛し、高い志をもつ児童の育成

【めざす子ども像】 「よく考える子」

「かかわりあう子」

「自ら行動する子」

【めざす学校像】 「確かな学力をつけ、児童の夢や希望が育つ学校」

「地域と連携し、信頼される学校」

「危機管理を徹底し、安全・安心な学校」

「教師の意欲と力量が高まる学校」

【川地中学校区めざす子ども像】

(1) ふるさとを愛し、誇りに思う子供

(2) 夢と学び続ける力をもち、自己実現に向かう子供

(3) 社会の一員としての道徳性と積極的に社会へ貢献する志をもつ子供

III 使命・存在意義（ミッション）

地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験・交流活動を充実させるとともに、知・徳・体の調和のとれた児童を育成することにより、保護者・地域の願いに応える。

IV 重点事項（努力点）

○児童に基礎・基本の学力を定着させるとともに、課題発見・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図り、自ら活用する力を向上させる。

○児童の主体性（目標に向かって挑戦する力、自ら積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする意欲や能力）の向上及び、他者と関わりあい協働する中で、共感力の育成を図る。

V 中心価値・行動規範

○教育的愛情をもち、授業改善や指導力向上に努めることで児童に確かな学力をつける学校をめざす。

○川地中学校区内の校種間の連携による教育（保小連携、小小連携、小中一貫教育）を推進し、取組の成果を保護者や地域に広く情報発信する学校をめざす。

○危機管理を徹底し、すべての児童・教職員にとって安全・安心な学校をめざす。

VI 現状分析

学校の内外環境の分析

外部環境	○支援的要因 【地域】 ・豊かな自然環境 ・地域の教育的資源が豊富 ・専門的な知識をもった人材の協力 俳句・防災教育 米作り・キャリア教育 福祉教育	S強み 【学校】 ・全児童の情報を共有し細かく指導を行うことができる。 ・全校活動が行いやすい人数 ・協業的校風 【児童】 ・素直で落ち着いている児童 ・何事にも興味をもって取り組む ・縦割り班による高学年のリーダー性の発揮 【保護者】 ・授業参観や懇談会の参加率高い	内部環境	○地域の特色やよさを積極的に取り入れた教育活動の推進 ・目的を明確にした地域学習や交流 ・ゲストティーチャー等地域人材の発掘・活用（人材バンク作成） ○川地小中一貫教育の推進 ・「情報を整理する力」の育成 ・表現力の育成 ・自己表現の場を広げる ○基礎・基本の学力を定着 ・協働的、主体的な学びを実現する授業研究スタイルの導入 ・ICTの有効的活用 ・ドリルタイム等を活用した個に応じた支援 ○情報発信 ・通信の内容の工夫
	T（阻害的要因） 【地域】 ・校区が広く見学等に行きにくい ・地域の豊かな人材・資源どのように生かすか	W（弱み） 【学校】 ・校務分掌分担（組織的な業務の遂行・引継ぎ） ・全体で確認したことの徹底が不十分（指導が徹底しない） 【児童】 ・場面によってルールを守れない ・自分の言葉で伝える力が弱い ・人間関係の固定化、関わり合う力の不足 ・学習の定着度に個人差がある ・耐性（我慢する力、耐える力）が弱い 【保護者】 ・保護者同士のつながりが希薄 ・PTA活動への参加意識が低い		○見通しを持った業務遂行 ・分掌部会の機能化 ・報・連・相・確認の徹底（いつ・だれがを明確にした起案・取組） ・意識統一した指導の徹底（暮会での児童交流） ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進 ○集団づくり ・PDCAサイクルによる児童の主体的な活動を成功体験につなげる ・挨拶・言葉遣い・掃除等高学年をリーダーとした日常的な取組の推進 ・安全安心が保障された学級集団の育成 ・児童会・委員会活動の見える化

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標表

	中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	評価項目（評価方法）
確かな学力	基礎学力の定着とそれを基盤にした思考力・判断力・表現力の育成を図る。	協働的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・既習事項が身に付くように家庭学習やドリルタイム、補充プリントの活用を工夫する。 ・1年間を通して3学年ずつの2つのブロックに分かれて、日常的に教材研究を行ったり、授業を見合ったりして授業改善を図る。 ・ふり返りを、自分の学びの視点から、また、新たな課題や疑問の視点で書かせる。 ・「やってみよう」「探究してみよう」という思いからねらいを見つけさせながら、自主学習に取り組ませ、評価する。	・算数科の単元末テストにおいて、思考力・判断力・表現力の正答率の平均が75%以上の児童の割合を70%以上にする。 ・「『学びたい』と思うような課題を見つけられたと思う」児童の割合を80%以上にする。（児童アンケート）
		自分の考えや思いを、適切な言葉を用いて表現する力を育成する。（表現・判断）	・「かくぞう朝会」において、自分の考えを書いたり、書いた文章を交流したりして、相手意識をもった書き表し方ができるようにする。 ・ICTを活用して、自分の考えを比較・検討し、他者に伝わるように資料を効果的に示しながら表現させる。	・自分の思いや考えを適切な言葉を用いて文章に表し、伝えることができる。 ・「算数の時間にみんなでいろいろな考えを発表し合うことが好き」な児童の割合を80%以上にする。（児童アンケート）
豊かな心	共感しあい、主体的にたくましく生きる児童の育成を図る。	「共感力」「主体性」を意識し、高めようとする児童を育成する。	・川地小のきまりにある「あいさつは、人と人をつなぐ『かけ橋』」、「返事は、相手と自分の気持ちを通じ合わせる『つながり』を作る」という意味と大切さをしっかり伝え、継続した全体・学級指導を行うことを通して、挨拶いっばいの川地小学校をめざす。 ・人間関係づくりトレーニング等を通して、人との関わり方を深める取組を行う。そして、人との関わりについて学期に1回児童にアンケートを取り、自分を振り返る。	・あいさつ週間を設け、「①自分から②元気よく③目を見て」あいさつができたという児童80%以上にする。（児童アンケート） ・「人」を大切にすることができたという児童を80%以上にする。（児童アンケート）
健やかな体		自分の心や身体に関心を持ち、健康づくりに取り組む児童を育成する。	・保健給食委員会の児童が主体となり、全校児童の健康意識を高めるための取組を行う。 ・歯みがき週間を通して、「歯ブラシを小刻みに動かす」、「いつも同じ順番で磨く」、「歯の形に合わせてみがき方を工夫する」ことで、みがき残しが無いうように歯みがきができるようにする。 ・いきいき姿勢週間を通して、普段の姿勢を振り返り課題を見つけ、「気づいた時に直す」を意識することで、正しい姿勢の習慣を身に付けることができるようにする。	・歯みがき週間において、「みがき残しの無いように歯みがきできた」と評価する児童の割合を80%以上にする。 ・いきいき姿勢週間において、学習中と食事時の「姿勢に気をつけて過ごすことができた」と評価する児童の割合を80%以上にする。
信頼される学校	保護者・地域から信頼され愛される学校をつくる。	保護者・地域の学校に対する満足度の向上を図る。	・学校だよりや学級通信、HP等を通して、学校で取り組んでいることがよく分かるように情報発信する。 ・川地保育所との交流活動、青河小学校とのリモート授業、川地中学校区全体での共同活動など、具体的な取組を積極的に取り入れ、教育活動の質の向上やスムーズな接続を図る。 ・CSの発足に伴い、地域の方にも積極的に授業等に参加していただく場を設定し、教育活動の質の向上を図る。	・保護者アンケート（年2回）で学校への満足度を90%以上にする。 ・各種たより、HP更新を月1回以上行う。 ・小中・小小・保小・地域と連携した取組を学期に1回以上行う。
		教職員の授業力と組織力の向上を図る。	・各種研修会に参加し、学んだことを校内へ還元する。 ・校内研修において授業研究を行い、相互の授業を見合うことを通して、授業力向上を図る。 ・分掌部会を定例化し、それぞれの役割を自覚するとともに、分掌内で協力しながら組織的に業務を進める。	・教職員アンケート（年2回以上）で肯定的評価している職員を80%以上にする。（授業改善、情報共有し組織として機能、学校経営に参画、分掌の協力）